事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国，冷戦下の地域紛争，先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理などを基に，国際政治の変容を理解すること。

(ｲ) 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携，計画経済とその波及，日本の高度経済成長などを基に，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の経済政策の特徴，欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(ｲ) 冷戦が各国経済に及ぼした影響，地域連携の背景と影響，日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，冷戦下の世界経済や地域連携の特徴，経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(3) 世界秩序の変容と日本

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 石油危機，アジアの諸地域の経済発展，市場開放と経済の自由化，情報通信技術の発展などを基に，市場経済の変容と課題を理解すること。

(ｲ) 冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に，冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) アジアの諸地域の経済発展の背景，経済の自由化や技術革新の影響，資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(ｲ) 冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(4) 現代的な諸課題の形成と展望

内容のＡ，Ｂ及びＣ並びにＤの(1)から(3)までの学習などを基に，持続可能な社会の実現を視野に入れ，主題を設定し，諸資料を活用し探究する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 歴史的経緯を踏まえて，現代的な諸課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり，現代的な諸課題を展望したりするなどして，主題について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって，次の事項に配慮するものとする。

ア　この科目では，中学校までの学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより，生徒が興味・関心をもって近現代の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際，近現代の歴史の変化を大観して理解し，考察，表現できるようにすることに指導の重点を置き，個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること。

イ　歴史に関わる諸事象については，地理的条件と関連付けて扱うとともに，特定の時間やその推移及び特定の空間やその広がりの中で生起することを踏まえ，時間的・空間的な比較や関連付けなどにより捉えられるよう指導を工夫すること。

ウ　近現代の歴史と現代的な諸課題との関わりを考察する際には，政治，経済，社会，文化，宗教，生活などの観点から諸事象を取り上げ，近現代の歴史を多面的・多角的に考察できるようにすること。また，過去の視点のみで一面的に現在を捉えたり，現在の視点のみで一面的に過去を捉えたりすることがないよう留意すること。

エ　年表や地図，その他の資料を積極的に活用し，文化遺産，博物館や公文書館，その他の資料館などを調査・見学したりするなど，具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際，歴史に関わる諸資料を整理・保存